



# ともに学び よりよい学童保育を

## 第57回全国学童保育研究集会

第57回全国学童保育研究集会は10月29、30の両日、オンラインで開催されました。オンライン開催2回目となる今年には全国から4575人が参加。岩手県からは326人が参加しました。1日目は全体会、2日目は26のテーマで分科会が行われ、参加者は学習、交流し学童保育への理解を深めました。

### ○開会行事

開会前の歓迎行事では、全国各地の学童保育クラブからリレー中継が行われました。岩手県からは盛岡市の上田学童保育クラブ、山岸学童保育クラブの子どもたち約30人が百人一首交流会の様子や、さんさ踊りを披露してくれました。

基調報告では、全国学童保育連絡協議会の高橋誠事務局長が「よりよい学童保育をつくるため、日頃の実践や運動で得て来た成果や課題を交流し、ともに学びあいましょう」と呼びかけました。続いて行われた「日本の学童ほいく」普及拡大アピールでは、北上市の北上学童保育所が、ペープサートを使った動画でほいく誌の魅力を伝えました。

自然災害で被災した地域からの特別報告では、大船渡市の放課後児童クラブさくらりっこの鎌田美奈子指導員が報告。「何年たっても追いつかない心の復興がある。どうか一人ひとりのペースでゆっくり進むことを引き続き見守ってください」と呼びかけました。

### ○記念講演

記念講演では「紛争地、被災地に生きる子どもたち～取材から見えてきたこと～」と題して、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんが講演。

安田さんは、「写真を通して今、世界で何が起きているか、どんな問題があるかを訴えるのがフォトジャーナリストの仕事」と説明。「子どもの表情は社会の指標。子どもが笑えない社会は豊かではない。次世代にどんな社会を伝えていくのか、皆さんと考えていきたい」と述べました。

そして、シリアやウクライナなど紛争地を訪れて撮影した写真を紹介しながら、政治的背景、そこに映った子どもたちに起きた困難や現状を伝え、「私たちにどんな役割を持ち寄るのだろうか？」と問いかけました。

さらに、国内にも話を広げ、東日本大震災後11年間通い続けている陸前高田市での取材活動について語りました。仮設住宅に住む地元の人たちが、シリアの人たちを支援した活動や、継続取材している子どもの成長の様子を紹介。「困難な状況に置かれている子どもたちを、さらに追い詰めてしまうのは、世界の人々の無関心。身近な子どもたち、大切な人と『こんなことが起きているんだって』と、ぜひ話してみたい」と述べました。

## 全国研参加者感想

### 指導員、保護者の気持ちをひとつに

大船渡市 放課後児童クラブさくらりっこ  
保護者 佐々木 薫 さん

学童は先生たちがパワフルであたたかく、本当に安心して子どもを預けられる場所だと感じていましたが、いろいろな思いを持って受け入れて下さっていることを実感しました。私たち保護者は迎えの時にしか顔を合わせることはないですが、どうして、こんなに丁寧な対応で、視点が鋭く、子どもだけでなく保護者がまっとするような関わりができるのだろうと思っていました。それは研修の場でたくさん勉強したり、自己研鑽の努力をしているからだと感じました。指導員、保護者みんなの気持ちが一緒だと、何より子どもが安心して、のびのび過ごせる学童になるのだと納得しました。

### 目標をもってぶれずに保育を

北上市 江釣子学童保育所  
指導員 三田 あゆみ さん

「指導員の職場づくりと指導員組織」の分科会に参加しました。職場で指導員が少しでも働きやすい環境になればと思い参加しました。レポートへの質疑応答や、それぞれの学童の課題を聞くことができ、共感することが多くありました。コロナ禍で職員同士のコミュニケーションが取りづらくなっており、他の学童ではどのような工夫をしているのかを知ることができ参考になりました。指導同士、保育の目標を持ち、軸がぶれることなく、同じ気持ちで保育することが大切なことだと思いました。これからも保育を楽しんでいきたいと思いました。